

株式会社リョーサン

2014年度第2四半期 決算説明会

2014年11月18日
代表取締役社長
三松 直人

2014年度第2四半期 業績結果

2014年度通期 業績計画

第9次中期経営計画の状況

資料取扱い上のご注意

このプレゼンテーションで述べられている業績計画等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。その要因のうち、主なものは以下のとおりです。

- ・主要市場(日本、アジア等)の経済状況、消費動向及び製品需給の急激な変動
- ・ドル等の対円為替相場の大幅な変動
- ・資本市場における相場の大幅な変動等

2014年度第2四半期 連結業績の概要

(単位:億円)

	2013年度		2014年度			上期		
	実績	売上高比	実績	売上高比	前年同期比	期初計画	売上高比	期初計画比
売上高	1,110		1,201		+8.1%	1,120		+7.3%
売上総利益	91	8.2%	94	7.9%	+3.8%	92	8.2%	+2.7%
販売管理費	68	6.2%	68	5.7%	△0.6%	69	6.2%	△0.7%
営業利益	22	2.0%	25	2.2%	+17.6%	23	2.1%	+12.9%
経常利益	21	1.9%	24	2.0%	+13.0%	24	2.1%	+1.3%
四半期純利益	13	1.2%	14	1.2%	+5.0%	15	1.3%	△6.2%
1株当たり四半期純利益(円)	42.16		44.73		+6.1%	47.67		△6.2%
国内売上高	594	54%	624	52%	+5.0%	580	52%	+7.7%
海外売上高	516	46%	576	48%	+11.7%	540	48%	+6.8%

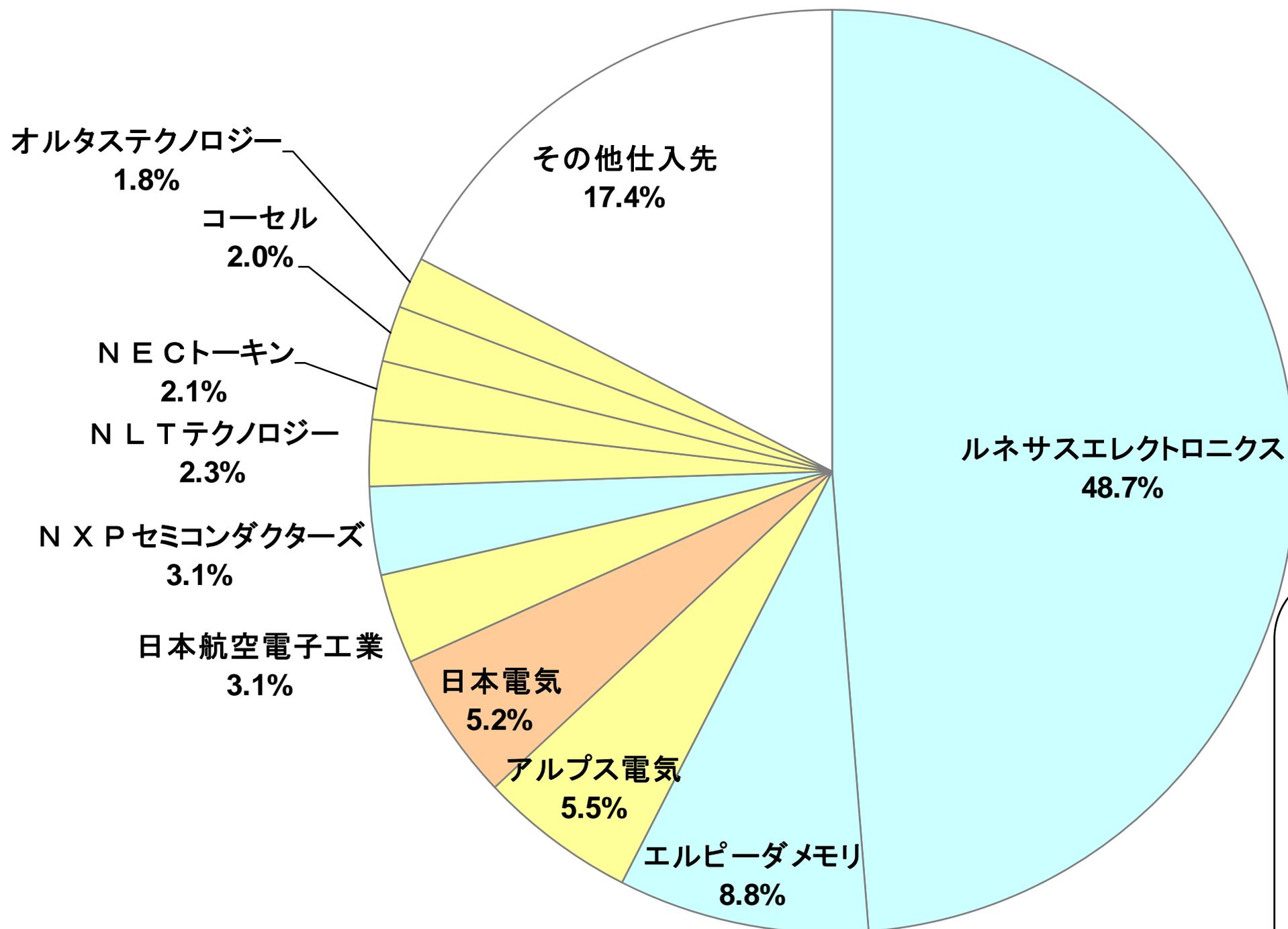
2014年度第2四半期 事業別業績の概要

(単位:億円)

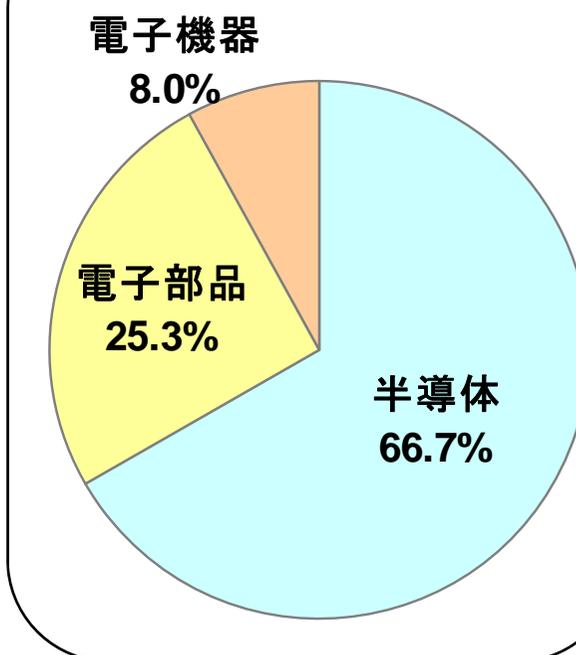
		2013年度		2014年度			上期		
		上期 実績	売上 高比	上期 実績	売上 高比	前年 同期比	期初計画	売上 高比	期初 計画比
半導体事業	売上高	743		800		+7.7%	750		+6.8%
	営業利益	13.6	1.8%	16.1	2.0%	+18.1%	14.0	1.9%	+15.1%
電子部品事業	売上高	284		304		+6.9%	285		+6.8%
	営業利益	6.5	2.3%	6.9	2.3%	+7.4%	7.2	2.5%	△3.6%
電子機器事業	売上高	82		95		+15.6%	85		+12.7%
	営業利益	3.0	3.7%	4.3	4.5%	+41.7%	3.0	3.5%	+45.0%
営業利益調整額		▲1.1		▲1.5			▲1.2		
計	売上高	1,110		1,201		+8.1%	1,120		+7.3%
	営業利益	22.0	2.0%	25.9	2.2%	+17.6%	23.0	2.1%	+12.9%

※. ヒートシンク生産事業を譲渡したことにより、「半導体事業」「電子部品事業」「電子機器事業」の3区分に変更

主要仕入先様



【事業別売上構成比】



※1. 敬称略

※2. 構成比(%)は各仕入先商品の2014年度上期売上高実績に基づく

主要得意先様

◆ 売上高上位40社

	上位1～10社	上位11～20社	上位21～30社	上位31～40社
顧客名 (アルファベット順)	アルパイン ブラザー工業 日立製作所 三菱電機 日本電気 ニコン オムロン パイオニア SAMSUNG(韓) ワコム	アルプス電気 カルソニックカンセイ カシオ計算機 デンソー 富士ゼロックス 現代自動車(韓) JABIL(米) マミヤ・オーピー パナソニック 住友電装	富士フイルム 富士通 HAIER(中) JVCケンウッド 任天堂 東芝テック TOPRO(中) Wuhan Fiberhome(中) ヤマハ 矢崎総業	クラリオン 古野電気 HISENSE(中) コニカミノルタ 村田製作所 NLTテクノロジー 山洋電気 セイコーエプソン スタンレー電気 ヨコオ
売上高 構成比	(上位10社) 54%	(上位20社) 70%	(上位30社) 77%	(上位40社) 81%

※1. 敬称略

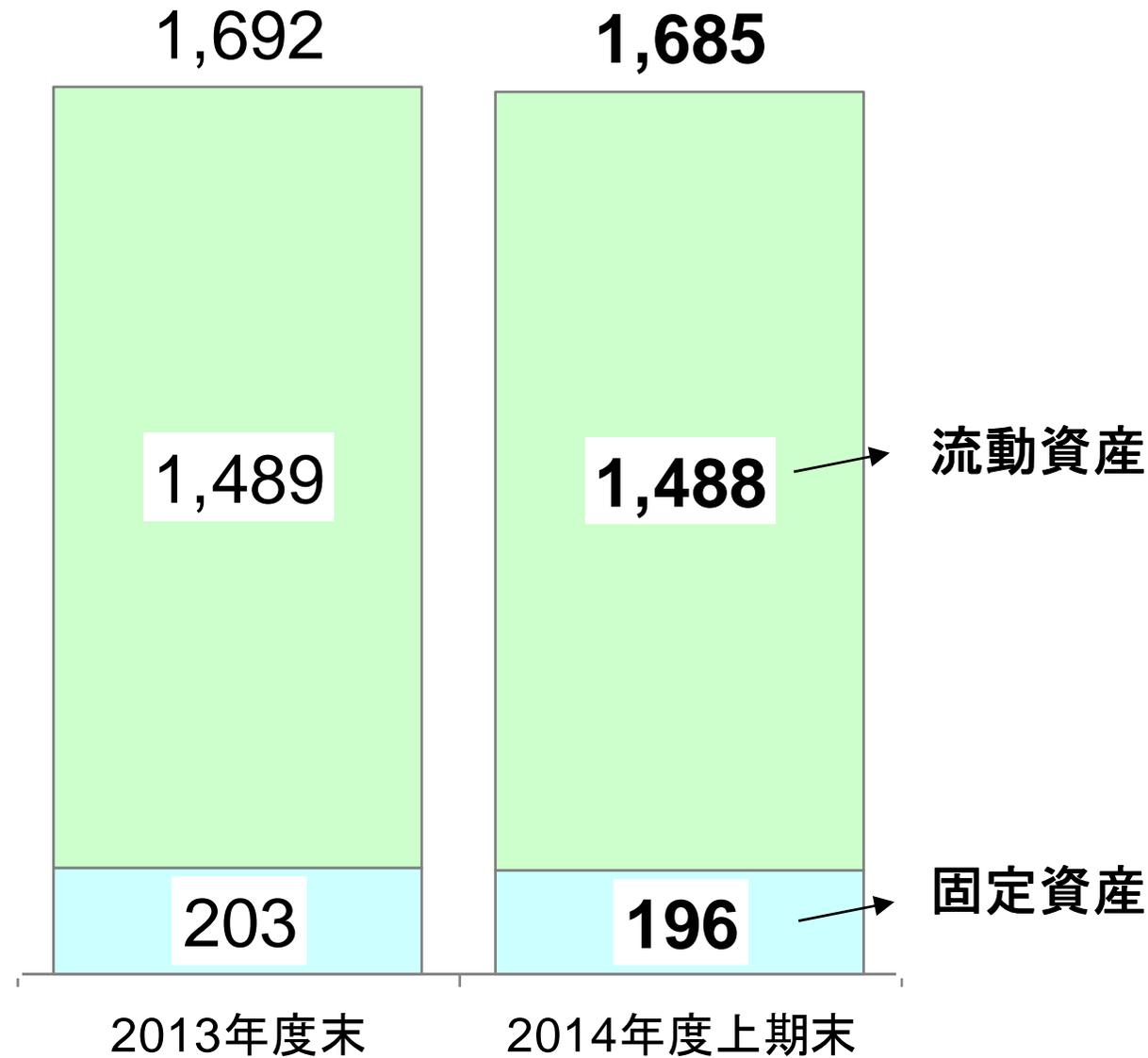
※2. 順位、構成比(%)は2014年度上期売上高実績に基づく

※3. (韓)は韓国、(米)は米国、(中)は中国の顧客

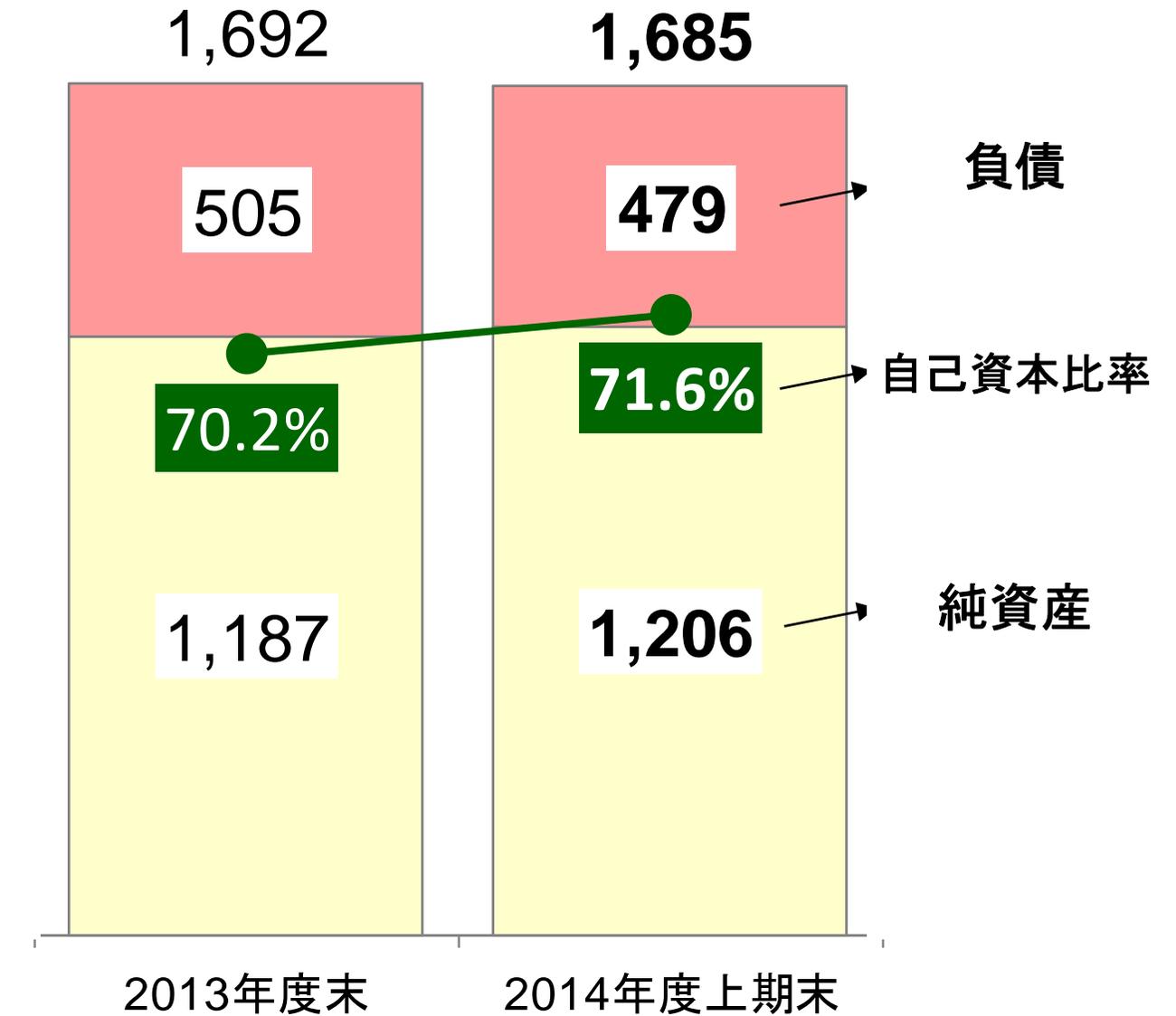
連結貸借対照表

(単位:億円)

◆ 資産



◆ 負債・純資産



主な増減

	実績	増減
受取手形及び売掛金	701	△49
たな卸資産	227	+10

	実績	増減
買掛金	279	△23
短期借入金	147	△9

連結キャッシュフロー計算書

(単位:億円)

	2013年度 上期	2014年度 上期	主な要因	
営業活動によるキャッシュ・フロー	13	60	<ul style="list-style-type: none"> ・税金等調整前四半期純利益 ・売上債権の減少 ・仕入債務の減少 	<ul style="list-style-type: none"> 24 59 △28
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2	9	<ul style="list-style-type: none"> ・事業譲渡による収入 	12
フリー・キャッシュ・フロー	11	70		
財務活動によるキャッシュ・フロー	△27	△27	<ul style="list-style-type: none"> ・短期借入金返済 ・配当金の支払 	<ul style="list-style-type: none"> △17 △9
現金及び現金同等物の四半期末残高	494	545		

2014年度第2四半期 業績結果

2014年度通期 業績計画

第9次中期経営計画の状況

2014年度通期 連結計画の概要

(単位:億円)

	2013年度		2014年度			2014年度		
	通期 実績	売上 高比	通期 計画	売上 高比	前期比	通期 期初計画	売上 高比	期初 計画比
売上高	2,383		2,290		△3.9%	2,270		+0.9%
売上総利益	186	7.8%	187	8.2%	+0.5%	186	8.2%	+0.5%
販売管理費	134	5.6%	133	5.8%	△1.2%	135	5.9%	△1.5%
営業利益	51	2.2%	54	2.4%	+5.0%	51	2.2%	+5.9%
経常利益	50	2.1%	53	2.3%	+4.9%	53	2.3%	0.0%
当期純利益	32	1.4%	34	1.5%	+5.5%	34	1.5%	0.0%
1株当たり当期純利益(円)	101.86		108.06		+6.1%	108.06		0.0%
国内売上高	1,246	52%	1,240	54%	△0.5%	1,250	55%	△0.8%
海外売上高	1,137	48%	1,050	46%	△7.7%	1,020	45%	+2.9%

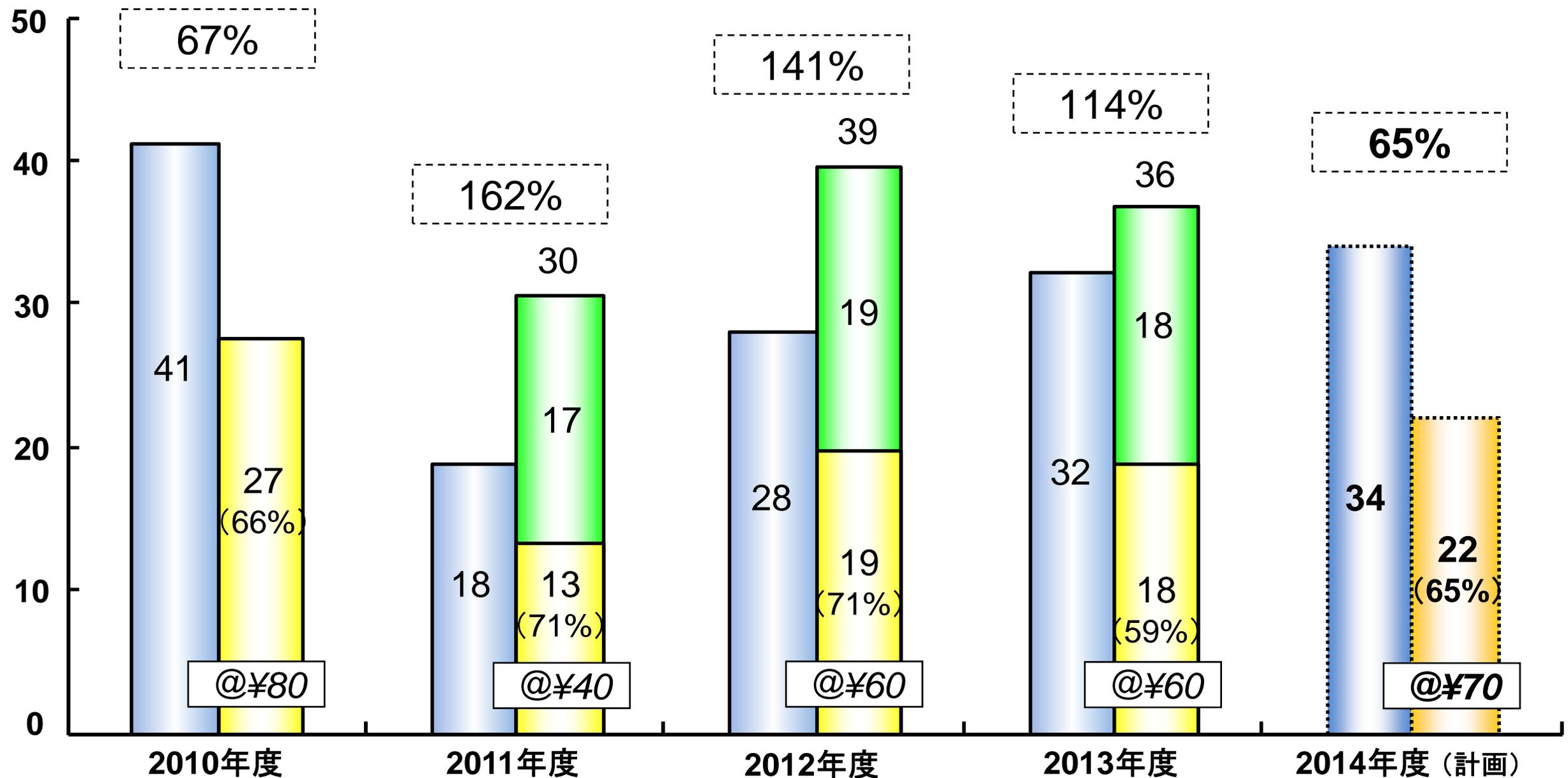
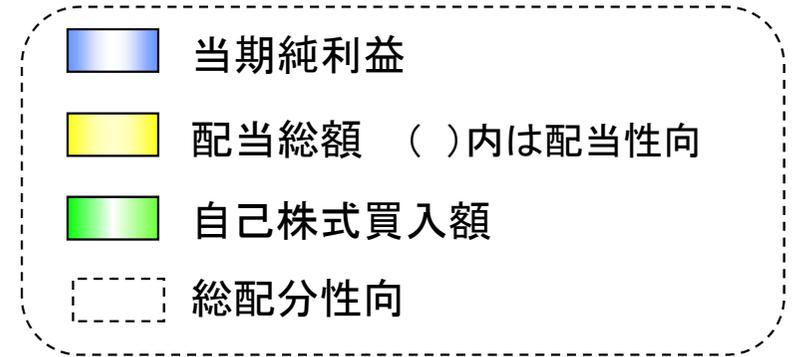
2014年度通期 事業別計画の概要

(単位:億円)

		2013年度		2014年度			2014年度		
		通期 実績	売上 高比	通期 計画	売上 高比	前期比	通期 期初計画	売上 高比	期初 計画比
半導体事業	売上高	1,615		1,495		△7.4%	1,470		+1.7%
	営業利益	32.0	2.0%	33.0	2.2%	+3.0%	31.5	2.1%	+4.8%
電子部品事業	売上高	593		610		+2.7%	605		+0.8%
	営業利益	14.1	2.4%	15.5	2.5%	+9.6%	16.5	2.7%	△6.1%
電子機器事業	売上高	174		185		+5.7%	195		△5.1%
	営業利益	7.0	4.1%	8.0	4.3%	+12.7%	5.5	2.8%	+45.5%
営業利益調整額		▲1.8		▲2.5			▲2.5		
計	売上高	2,383		2,290		△3.9%	2,270		+0.9%
	営業利益	51.4	2.2%	54.0	2.4%	+5.0%	51.0	2.2%	+5.9%

株主様への利益還元計画

(単位:億円)



2014年度第2四半期 業績結果

2014年度通期 業績計画

第9次中期経営計画の状況

基本姿勢

第9次中期経営計画の基本姿勢

「変革」と「成長」

事業構造の変化に対応した
「ビジネスモデルの転換」と持続可能な「自律的成長」の追求

普遍的な経営姿勢

「経営の本質を探究し、経営の革新を進め、
経営の成果を挙げる」ことを基軸に、
「オープンでクリーンな企業経営」と「創造性豊かな事業活動」を実践する

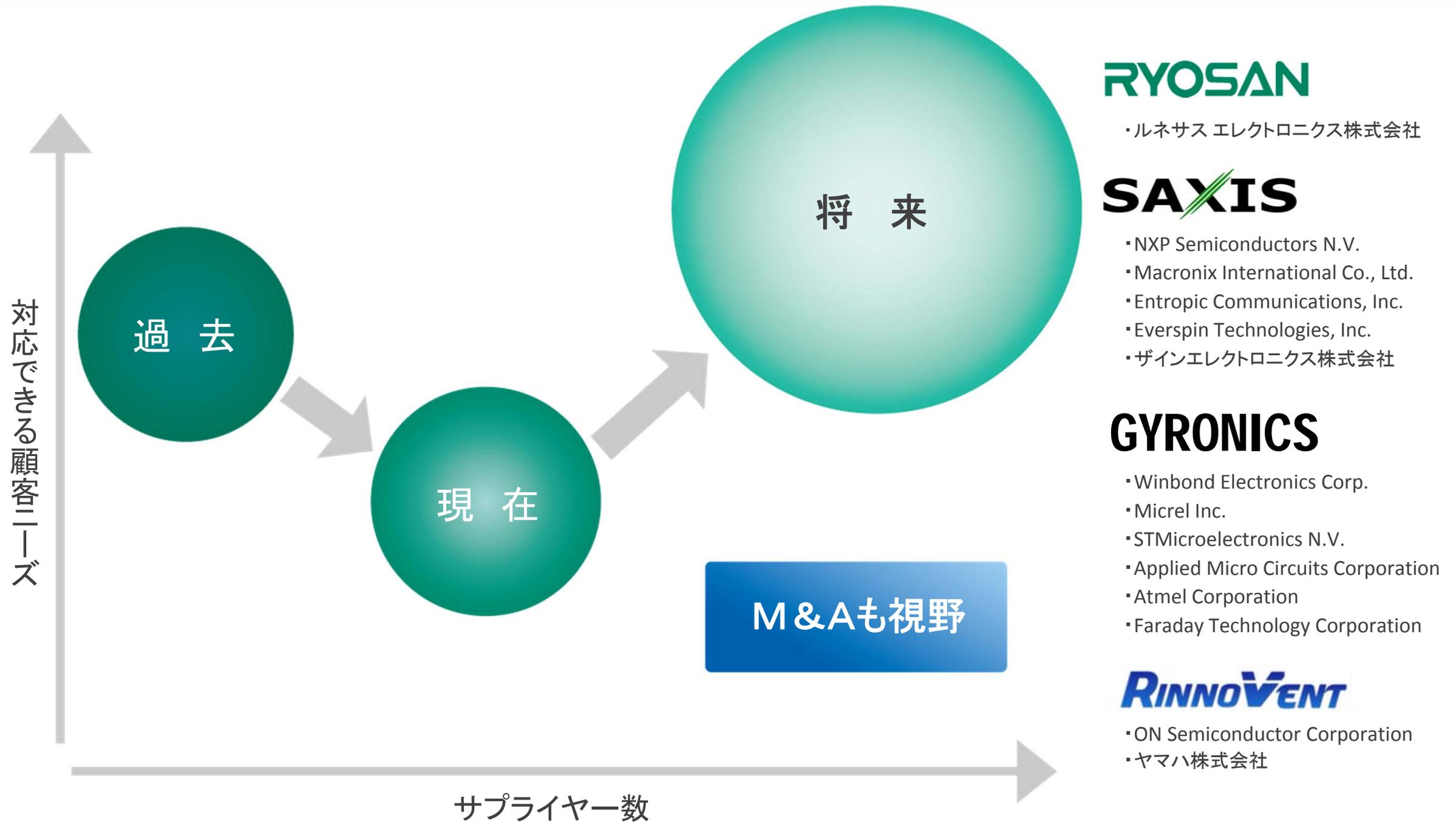
成長戦略

◆ 多様化する顧客ニーズに対応したマルチベンダー化の更なる推進

◆ グローバル対応強化による海外ビジネスの拡大

◆ システムソリューション力(システム技術力+組込システム力)の強化による
新たなビジネスモデルの創出

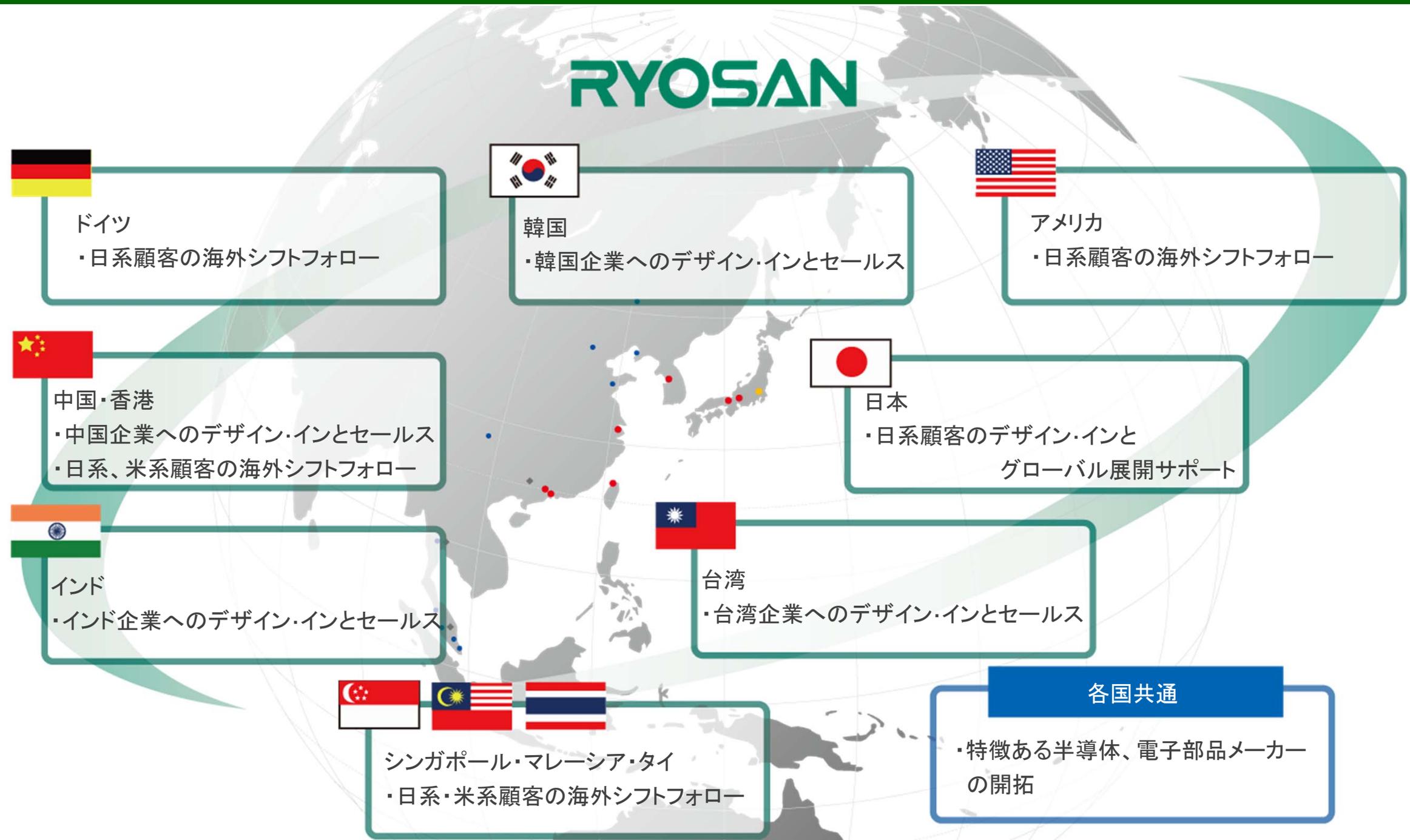
多様化する顧客ニーズに対応したマルチベンダー化の更なる推進



現在までの主な取り組み:

- ◆ リノVENT社を設立し、オン・セミコンダクター社、ヤマハ社を基軸としたビジネスを開始

グローバル対応強化による海外ビジネスの拡大



現在までの主な取り組み:

- ◆ インドビジネスの現地法人化による強化

システムソリューション力の強化による新たなビジネスモデルの創出

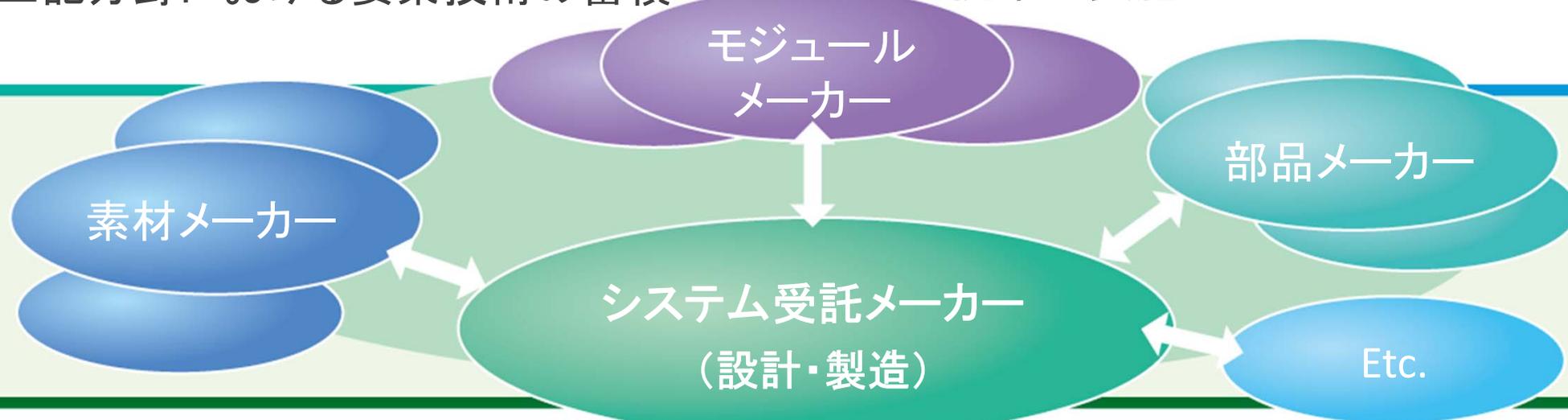
リョーサンのシステムソリューション

システム技術力（具現化）

- ・成長分野、大量消費分野のシステム技術力の拡充
- ・上記分野における要素技術の蓄積

組込システム力（コーディネート）

- ・核となる保有技術（モジュール・ボード等）をベースとした付加価値提案の実施



現在までの主な取り組み:

- ◆ 4つのプロジェクトを発足させ、分野、顧客でターゲットを絞り、活動推進中
分野: 監視カメラ 等

株主様への利益還元の基本方針

◆ 基本方針

- 安定的に高配当を維持し、2016年度までに80円への復配を目指す。
- 連結業績の動向等を勘案し、自社株買いも引き続き検討。

◆ 連結配当性向

- 毎年50%以上。